

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 21 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時：6月13日月曜日 13時25分～15時40分

2. 場所：日本原子力技術協会 会議室C・D

3. 出席者 (順不同, 敬称略) 開始時

(出席委員) 川上 (主査), 北島 (幹事), 佐々木, 亀尾, 見上, 三宅, 渡邊, 田中 (雄), 市毛, 福村, 宿谷, 本山 (12名)

(欠席委員) 岩崎 (副主査), 黒澤, 高橋, 七田, 大塚, 森本 (6名)

(委員候補) 脇 (1名)

(常時参加者) 小林, 林, 石川, 大間, 田中 (靖), 遠藤, 辻, 能浦 (8名)

(欠席常時参加者) 飯田, 中瀬, 石屋, 杉山, 向原, 武部, 松居, 花畑, 金子 (9名)

(傍聴者) 前田, 牧野 (2名)

(事務局) 谷井

4. 配付資料

F10Ph2SC21-1 前回議事録

F10Ph2SC21-2-1 原子燃料サイクル専門部会

F10Ph2SC21-2-2 標準委員会の活動状況について

F10Ph2SC21-3 人事について

F10Ph2SC21-4-1 “ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順 (案)” に対する原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会のご意見・コメントへの対応 (案)

F10Ph2SC21-4-2 【本報告】「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順」 (案)

F10Ph2SC21-4-3 本報告 (概要)「ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順」 (案)

F10Ph2SC21-4-4 ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順：201X (案)

F10Ph2SC21-5 分科会の今後の予定について

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 開始時点で委員18名中, 代理委員を含めて12名の出席があり, 決議に必要な委員数 (12名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録案の確認 (F10Ph2SC21-1)

前回議事録修正案について承認された。

(3) 標準委員会の活動概況 (F10Ph2SC21-2-1, F10Ph2SC21-2-2)

事務局より、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会の活動状況について報告された。

(4) 分科会人事について (F10Ph2SC21-3)

事務局より、山田委員(関西電力)の退任の報告がなされた。また、脇委員(関西電力)の新委員選任が承認された。

(5) 原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会のご意見・コメントへの対応(案) (F10Ph2SC21-4-1)

本山委員より F10Ph2SC21-4-1 を説明。コメント等は以下のとおり。

- ・No. 3 のコメント対応案で「母集団」という言葉を削除したが、サンプリングにある程度の数が必要ということが読めなくなってしまう。「母集団」という言葉を使用することで、スケールリングファクタを収束させることが出来る数が必要ということが読めていた。
 - サンプリング方法に関する記載のところで一応ニュアンスは入っている。
 - 「母集団」という言葉は入れた方がよいか。
 - コメントをされた委員は「母集団」という言葉を使いたくないようであった。「評価対象を代表できる適切な個数の試料をサンプリングし、」などと修正する。
- ・No. 3 のコメント対応案で「各々のグループ内の放射能濃度データに差異がないことを、統計解析などにより確認する必要がある」とあるが、ここで「差異」という言葉を使うのは違和感がある。
 - スケールリングファクタを設定しているグループの分類/統合を統計解析で確認するということ。
 - 「各々のグループ内で共通のスケールリングファクタを使用できることを統計解析手法により確認する」と修正すればよい。
- ・No. 4 のコメント対応案の除染に関する記載だが、除染済みの廃棄物に SF 法を適用することも将来的には考えられるのでは。
 - 除染して、残る物があると SF 法が変わってしまう場合も考えられる。
 - 実証データがあれば、将来的に適用は可能。
 - 除染済みの廃棄物にも SF 法は適用可能だが、現在は適用されていない。除染済みの廃棄物で適切にグループ分けすれば設定は可能だが、実証データが今はない。
 - 実証データがあれば評価可能と記載すればよい。
 - 対応案の記載を修正する。
- ・No. 5 のコメント対応案だが、運転廃棄物と解体廃棄物はどこが異なるのか、解体廃棄物はデータがないから切ってしまうことでは、標準化はまだ早いのではないかと云われぬか。
- ・No. 5 のコメント対応案だが、ばらつきを考慮した最大放射能濃度の評価は既に確認済みである。実際のデータと最大放射能濃度の乖離を今後埋めていくことになるのではないか。

- ばらつきを考慮した最大放射能濃度の決め方は標準案に記載されている。今後、実際のデータと最大放射能濃度のズレを埋めていくことを検討する旨を、対応案に記載する。
- ・ No. 6 のコメント対応案の記載は、実際の廃炉時の工程管理とあっているか。
 - あらかじめ処分先を想定してレベル分けして管理しているのではないか。
 - 処分先・形態で分け、放射能濃度決定方法を記載した方がわかりやすい。将来的にはまとめることも考慮するという記載に修正する。

(6) 本報告案 (F10Ph2SC21-4-2~4-4)

F10Ph2SC21-4-2, 4-3, 4-4 を北島幹事より説明。コメント等は以下のとおり。

(F10Ph2SC21-4-3)

- ・ p. 2 で「制定済み」と「制定済」の記載が混在している。統一して欲しい。
- ・ p. 2 で注記の「*3」の表中の記載が漏れている。
 - クリアランス欄の制定済みを「制定済み*3」とする。
- ・ p. 5 の放射化物の欄で「一部中性子条件等が整備困難」とあるが、整備困難は誤解を与える、適切な表現に修正する。
- ・ p. 5 の主体となる放射能濃度決定方法欄で、対象領域区分がはっきりしないところは、斜め線で区切るように修正する。
- ・ p. 6 で「原子炉容器 (R/V) 上蓋吊りピース」の計算例は、元素データは文献値、中性子条件は計算値。一方、「SG 壁外側コンクリート」の計算例は、元素データは実測値、中性子条件は測定値を用いている。誤差もどの程度か言われる可能性はある。
- ・ p. 7 で放射化量/単位元素量の単位として Bq/ t が示されているがよいか。また、⁶³Ni/⁶⁰Co 濃度比として「(Bq/Bq)」との記載があるが、無次元でもよいのではないか。
- ・ p. 8 で濃度比の変動幅が示されているが、どのような部分の値を示しているか注釈した方がよい。
- ・ p. 12 の表中の「タンクや容器などに収納した廃棄物」として、「瓦礫」の記載があるが、標準中では引用されていないので、表現を検討し修正する。

(F10Ph2SC21-4-4)

- ・ 標準本体(まえがき)の英文は十分確認がなされているか。
 - 第一パラグラフのセンテンスは、余裕深度のものを使用、第二パラグラフは L2 標準のものを使っているので問題ないとする

(7) 今後の分科会の予定について (F10Ph2SC21-5)

F10Ph2SC21-5 を北島幹事より説明。次回、第 2 2 回では、専門部会コメント対応、標準案の取りまとめ(標準委員会本報告版)を示す予定。

6. その他

次回の分科会は、8月頃に実施する予定。

以 上